Hiroshima City University's founding principle is to become an international university which contributes to world peace and to the prosperity of the community through education and research in science and art.



Clubs & Circles 紹介 いちレポの学生がクラブ・サークルの魅力を伝えます。

上田宗箇流茶道部

上田宗箇流茶道部は市大の中で最も古い課外活動団体で、創立 当初から茶室が設けられていました。茶道にはさまざまな流派がありま すが、上田宗箇流の特徴として、性別により異なる所作や"凛とした美 しさ"を感じることのできる洗練された所作が挙げられます。普段は週に 1回部員が集まって茶室でお茶会の練習をしています。

茶道具は、戦国時代に武士の間で献上品としてもてはやされていた そうですが、同部では、夏に宮島で茶碗を手作りするなど、思い入れを 持って茶道具を扱っています。作った茶碗はお茶会で使用しています。 大学祭での茶会や「七夕茶会」などの定例的なもののほかに、マツ

ダスタジアムで開かれる「カープ茶会」にも参加しています。「カープ茶 会 | は広島の各大学にある上田宗箇流茶道部の部員が集まり、来場 された方々に点前を披露した後、試合を観戦するので、カープファンの 方にもおすすめです。

茶道と聞くと敷居が高く感じるかもしれませんが、丁寧に教えて もらえるので初心者の方でも楽しんで活動できそうです。広島の魅 力が詰まった上田宗箇流茶道部に、ぜひ立ち寄ってみてください。

(取材/芸術学部2年 吉田梨乃·国際学部2年 上嶋美優)

部員数/5名 活動日時·場所/月曜日 17~20 時、学生会館2階和室







"いちレポ"の学生が一日体験入部をし、執筆しました。



2025年度学年暦 後期(10月1日~3月31日)

10月 1日(水)	秋季入学式·後期授業開始
15日(水)	月曜日の授業実施
16日(木) — 20日(月)	後期履修確認期間
25日(土)	ホームカミングデー
25日(土) — 26日(日)	大学祭
11月 6日(木)	月曜日の授業実施
21日(金) — 27日(木)	第3ターム試験期間
24日(月·振替休日)	月曜日の授業実施
12月27日(土) — 1月4日(日)	冬季休業
1月27日(火) — 2月5日(木)	後期定期試験
2月 6日(金) — 3月31日(火)	学年末休業
3月23日(月)	春季卒業式

ICHIDAI NEWS

いちだいニュース



入試情報



大学案内

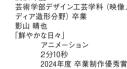


West Breezeについての ご意見やご感想はこちらへ 広島市立大学 広報委員会 E-mail kikaku@m.hiroshima-cu.ac.jp Tel 082 (830) 1666 Fax 082 (830) 1656

West Breezeの最新号・バックナンバーはウェブサイトからご覧いただけます。

広島市立大学広報誌のタイトル「West Breeze」は、広島市立大学のある西風新都にちなんで命名されました。

【West Breeze 96 号】 編集·発行/広島市立大学 広報委員会 発行日/2025年8月1日



表紙作品

2024年度





〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号 Tel 082 (830) 1500 (代) Fax 082 (830) 1656



West Breeze | no.096

| 市大を志望する皆さんへ |

市大を志望する皆さんへ

市大に入学したい! という思いを実現させ、 次の目標へ一歩踏み出した 先輩たちから、応援メッセージ。









世界で活躍する自分に

国際学部は、特色ある5つのプログラムや豊富な第二外 国語などの強みがありますが、私が推したいのは、学生数 に対して先生の数が多いことや、少人数制のゼミで先生方 と密に議論しあい相談できる環境が整っていることです。 また、留学生、外国人の先生方との交流や充実した留学制 度によって、より実践的に国際的な視点を育むことができ ます。

受験勉強においては、自分だけのパターンを作っておく ことをおすすめします。国際学部の入試問題は、国際問題 や社会科学に関する問題を組み合わせたものが多いです。 総合問題の場合は、とにかく過去問や似通った問題など多 くの量をこなすことによって、自分の中で論の展開の仕方 やキーワードなどのパターンを作っておくことが大切です。

最後に、継続することは難しいですが、それができれば 結果は自然とついてきます。必ずしも明確な目標や夢がな くても、この先大学生活などにおいて、多くの人に出会い、 自分が思う以上に新たな自分や考え方の発見があると思います。それでも、さまざまな体験を通じて「やりたいこと」 ます。気負い過ぎずに柔軟な視点を持って、未来へ向かっ て最後まで頑張ってください。

新しいことを知る・学ぶ

私は、高校で農業という分野を学び、新しい夢を持つよ うになりました。新しい農業の形である「スマート農業」 を知り興味を持ちました。スマート農業とは、情報の分野を 農業に組み込んだものです。そこで私は広島市立大学主催 の「高校生による情報科学自由研究」に参加し、情報通信技 術を使った農業について新たな学びを得るとともに、この 広島市立大学で学びたいと考えるようになりました。

この経験を踏まえて、これから受験をする皆さんが進路 で悩んでいるなら、ぜひやってみてほしいことがあります。 それは、オープンキャンパスや大学が開催している公開講 座に積極的に参加してみることです。新しいことを知る きっかけになるだけでなく、大学の雰囲気や特色を肌で感 じることができるからです。そして、その体験を通じて、 将来やりたいことを考え、何を学ぶ必要があるのか、どこな らばそれにつながるのかを考える手掛かりにしてください。

きっと悩むことも増え、大変な時期になってくると思い を見つけてください。皆さんがよい学生生活を送れるよう に、応援しています。

苦手を自信に変えていく

今、受験対策が上手くいっていなかったり、描くことに 行き詰まっているという方もいると思います。私も人物画 が苦手で、描くことは好きでも行き詰まったり、投げ出し たくなるときがありました。そのときは、描くだけではな く、画集を見たり、美術館に足を運んでみたり、日常にあ るものの中からヒントを得たりして、自分が「いいな!」 と感じるものを探していました。

広島市立大学では、カリキュラムに人物を描く授業があっ たり、夏には人体の構造について学べる美術解剖学の集中 講義があります。私は高校生や予備校生の時、人物を描く 機会が滅多になかったため、苦手だった人物画をこの大学 でどう描けるようになるか、楽しみにしていました。気付 いたことを生かしながら考え、一つ一つ研究し、工夫を重 ねることで新しい発見があります。作品を見ることや実験 を繰り返し「好き」を増やして強みに変えていくことは、 大学入学後のモチベーションにもつながっていくはずです。

これから多くの山を乗り越えていかなければならない時 期ですが、皆さんの目指す場所にたどり着けることを願っ ております!



流れに身をまかせてきたが、流れる水は腐らないともいう



彫刻家・公益財団法人ポエック里海財団 文化芸術および里海環境保護担当

尾身 大輔 さん

芸術学研究科(博士前期課程)造形芸術専攻 2016 年度修了

広島県三原市の離島、小佐木島に移住し、彫刻家として作家活動を行う尾身大輔さんにお話を伺いました。

―現在の主な活動内容について教えてください。

公益財団法人ポエック里海財団の文化芸術担当および 里海環境保護担当として、小佐木島(広島県三原市) で生活しながら、島にある財団所有のギャラリーの管 理や受付、島の環境整備に従事し、また、自身も作家 として作品制作や展示などを行っています。

一作家になるまで、どのような道をたどったのでしょうか。

もともと物作りが好きで工芸科のある高校を受験する つもりだったのですが、中学の美術の先生に美術科の 受験を提案されました。進学の際、何か物作りができ るのは彫刻コースだろうと思って彫刻を選び、大学進 学の際も彫刻専攻のある大学を探して、出身地の香川 県からそう遠くない広島市立大学を進学先に選びまし た。明確に作家になろうと考えたことはなかったので すが、大学に進学して作品制作が生活の一部になり、 それが楽しいので続けているうちに今に至ります。

一作品制作に取り組むのに、市大はどのような環境でし たか。

市大にある工房は集中して作業できる場所です。設備 や道具類も充実しているので、作品制作にとても良い 環境だと思います。大学にあるさまざまな設備や道具 に慣れておくと、その後の作品制作にも役立つと思い ます。

一市大時代の学びや取り組みで、特に良かったことや 今の制作活動に生かされていることはありますか。

大学で学んださまざまな素材やそれらの扱い、道具の 準備や使い方・手入れ、制作方法や手順などといった 基礎的な知識や技術は、やはり作品制作の根幹をなす ものなので、今でも変わらず生かされています。 また、意識して取り組んだことではないのですが、作 品作りでも、手慰みでも、なんでもいいので何かを作 り続けたことです。作業自体に慣れましたし、技術や

作業スピードの向上にもつながりました。



木彫作品「ヒトクサヤドカリ」



作品を設置する様子

それから、香川県での「小豆島アートプロジェクト」 に参加したことも大きかったです。このプロジェクト に毎年継続して参加したことで「瀬戸内国際芸術祭」 に出展する機会につながり、そこからさらに今の作家 活動にもつながったように思います。

一現在の制作活動において、意識していることや心がけ ていることを教えてください。

物作りそれ自体を楽しむこと、自分にとっても面白い 作品を作ることを第一に、活動しています。自分が楽 しい、面白いと思うエンタメであるなら、作品を見て くれた人の中にもきっと同じように感じてくれる人も いるだろうと思っています。

一作品のテーマやモチーフはどのようにして決めるので すか。

特にこれといって決まった方法はありません。たまた まある生き物を見て作りたいと思ったとか、訪れた先 の土地に関係があるからとか、ある展示場所を見てふ と思い浮かんだなど、直感が先行することが多いでしょ うか。直感のイメージから出発して、イメージにある この生き物はどういう存在なのか考えたり、その生き 物について調べたりして、テーマやコンセプトを固め ていくことがほとんどです。

一今後の活動予定や目標を教えてください。

今後の目標としては、コンスタントに作品制作を行う のはもちろんですが、ポエック里海財団文化芸術担当 および里海環境保護担当として、拠点である小佐木島 で制作した作品を島内に設置し、景色に彩りを加えた り、島内で個展を開催するなど、島の活性化につなが るような活動も行っていきたいと思います。

―後輩たちへメッセージをお願いします。

学生のうちに、作品制作を「ひとまずやり切る」とい う経験をしたほうがいいと思います。課題で作るもの でも、それ以外のものでも、なんでもいいので、自分 の中で「完成」と思える作品制作を経験しておくと、 今の自分の可能性と限界が分かったり、制作期間など を感覚的につかめるようになったりして、今後の作品 制作に役立つでしょう。

作品制作は体力勝負です。彫刻などは肉体労働ですし、 時間もかかります。授業や課題、バイトや部活なども あり、なかなか大変だとは思いますが、それらを乗り 越えて有意義な学生生活を送ってほしいと思います。



■ 富 ■ 尾身さんが参加する「瀬戸内国際芸術祭 2025」 の詳細はこちらから

https://setouchi-artfest.jp/



ドイツ国内旅行で訪れたケルン

(ドイツ)ハノーバー専科大学

人とのつながりを大切に、 国際交流を楽しむ

国際学部国際学科4年

藤本 彩奈

ループ発表が強く印象に残って した。特に、Eコマースマ います。また、授業で親交を深め に留学生の友人と、ドイツ国内外

月間で4つのオフィス 現地のNPO法人でイ を旅行したのもいい思 経験もしました。3カ 方の調査をするため、 である労働環境や働き ンターン生として働く そして、留学の目的

授業で行ったグループワーク



寮で国際料理パーティー

との交流を楽しむことができま 業ではグループワ 国籍の学生たちと学びました。授 ノットの時間が多く、教授や学生 1、韓国出身の留学生と行ったグ へに関する授業を履修, 、ィングの授業でスペイン、ト

留学先では、ドイツ語やビジネ クやアウト し、多様な

留学になりました。協力してくれ た多くの友人や教授、そして家族 間の滞在でしたが、入念な準備が 様な価値観を知ることができ、と ないことが多く不安でしたが、多 に出ても、人とのつながりを大切 に感謝しています。これから社会 できていたので、とても充実した しもいい刺激になりました。半年

用し、ドイツのハノーバー専科大 バの労働環境や働き方に関心を 埋由は、本学で学ぶ中でヨーロッ 学に留学しました。留学を決めた 私は本学の交換留学制度を利

持つようになり、実際に現地で働

くことを通して実態を知りたい

し考えたからです。

面で日本との違いを実感できま 籍の学生との生活は、最初は慣れ や教育現場を訪問し、さまざまな また、学生寮でのさまざまな国



行博物館、水上マーケットなどの す。バンコク国立博物館やタイ銀

る力を養ってくれました。

たったのは、豊富な課外実習で

になりました。また、特に魅力的

に自信を持って発言できるよう

や先生方のサポー

現地の友人と訪れたワット・ プラパトムチェーディー



大学のクリスマスパーティ

(タイ)シラパコーン大学

タイで見つけた自分軸

国際学部国際学科4年

片山 華

ションが多く、言語の壁に戸惑い ましたが、同じ授業を受ける学生 ミュニケーションを学びました。 **漂っていました。熱帯ならではの** とができました。 ら然に囲まれて、のびのびと学ぶ 授業では主にタイ語でのコ ループワ -クやプレゼンテ・

価値観を理解し、柔軟に受け入れ ることができました。シラパコー だったため、不安も多くありまし ン大学に留学した初めての学生 やり遂げた経験は、大きな自信と ン大学で過ごした時間は、多様な より、さまざまな困難を乗り越え なりました。本学からシラパコ・ ではありませんでしたが、それを たが、現地の方々の温かい支援に 人暮らしは決して簡単なこと

言語も文化も異なる環境での

(寺院)の美しさは今でも忘れら ワット・プラパトムチェーディ の友人に連れて行ってもらった 文化的施設を見学し、教室の外で

タイの文化や言語に興味があり

この大学を選びました。シラパ

コーン大学に交換留学しました。

私は約5カ月間、タイのシラパ

にクリエイティブな雰囲気が みを持つ大学で、キャンパス全体 コーン大学は美術や考古学に強

感じることができます。

立ち並び、タイの活気ある日常を れません。祭りの時期には屋台が

学を推進しています。留学を終えた2人から、体験記を寄せても らいました。 本学では海外学術交流協定大学との活発な交流・学生交換留

留学体験

